

佐賀県研究成果情報

ニホンナシ「あきづき」の適正な摘果時期					
[要約]ニホンナシ「あきづき」は満開後 20 日に早期摘果することによって果実重が重く、一樹内の果実重のバラツキが少ない。また、果実糖度は摘果時期による差は見られないが、短果枝着生果実が腋花芽着生果実より高い。					
佐賀果樹試・落葉果樹研究室			連絡先	0952-73-2275	
部会名	果 樹	専 門	栽 培	対 象	ナ シ

[背景・ねらい]

現在、九州各県において導入が進んでいるナシ品種「あきづき」は果実品質が優れているが、まだ、その栽培技術は確立されていない。そこで、栽培上重要な適正な摘果の時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 摘果の時期が遅くなると短果枝、腋花芽着生果実ともに果実重は軽くなる。果実品質については摘果時期による差は見られないが、短果枝着生果実が腋花芽着生果実よりいずれの摘果時期においても糖度が高い(表1, 2)。
2. 収穫果実の重量分布は摘果時期が早いほど、バラツキが少ない(図1)。
3. あきづきは満開後 20 日までに短果枝着生果実を 10 果 / m<sup>2</sup>に摘果することによって、果実重 550 g 以上、糖度 12 % 以上の果実が生産でき、一樹内の果実重のバラツキも少ない。

[成果の活用面・留意点]

1. 「あきづき」は花芽の着生がやや悪く、摘果程度については最終的には一樹あたりの着果量で判断する。
2. 腋花芽に着果させる場合、基部まで花芽が着生していない着果枝の利用は果実肥大が悪いため、出来るだけ利用しない。
3. 授粉を行う場合、一果叢あたり 1 ~ 2 花とする。

[ 具体的データ ]

表1 あきづき果実の品質調査 (2002年9月7日)

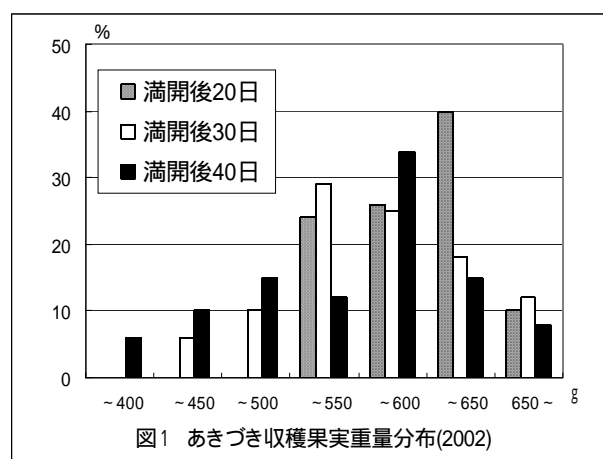
	摘果時期	一果平均重(g)	硬度(p)	糖度	pH	種子数	変形程度 <sup>a)</sup>
短果枝	満開後20日	612.5	4.5	12.8	5.02	4.5	1.03
	満開後30日	583.6	4.7	12.5	5.05	5.2	1.04
	満開後40日	567.3	4.3	12.4	5.06	5.5	1.02
腋花芽	満開後20日	653.1	4.7	12.1	4.98	6.2	1.08
	満開後30日	611.2	4.5	11.9	5.01	5.1	1.08
	満開後40日	610.3	4.4	12.2	4.95	6.1	1.10

a) 長横径 / 短横径

短果枝と腋花芽着生果実それぞれ摘果を満開後20日、30日、40日に行った。摘果程度は10果/m<sup>2</sup>とした。2002年は満開が4月5日で収穫は9月7日、2003年は満開が4月9日で収穫は9月10日に行った。

表2 あきづき果実の品質調査 (2003年9月10日)

	摘果時期	一果平均重(g)	硬度(p)	糖度	pH	種子数	変形程度
短果枝	満開後20日	591.5	4.2	12.2	4.98	6.5	1.05
	満開後30日	531.6	4.4	12.3	5.04	5.3	1.07
	満開後40日	543.3	4.1	11.8	5.02	5.8	1.04
腋花芽	満開後20日	573.1	4.5	11.7	5.02	5.2	1.13
	満開後30日	561.2	4.3	11.9	5.01	5.6	1.09
	満開後40日	521.3	4.5	11.3	5.01	4.7	1.15



[ その他 ]

研究課題名：中生ナシ新品種の栽培技術開発による新出荷体系の確立

予算区分：県単

研究期間：2002～2007年度

研究担当者：稲富和弘、福田浩幸、前山美和